

大学生と著作権に関する分析

A Study of College Students and The Copyright Act

三好 善彦

MIYOSHI Yoshihiko

Recently, many copyrighted materials are available to us because of spread the Internet. We are not allowed, however, to make a free use of those materials which are protected by the Copyright Act. To reduce the problems involved with copyrighted materials, we should have some knowledge and understanding of the Copyright Act. In this paper, I make an analytical study of our college students' general understanding of the copyright problems, reflected in my recent questionnaire survey.

1. はじめに

情報技術（以下、IT）が発展した現在では、それらを利用した授業が多く行われるようになってきている。ここで問題となっているのが、その授業内における著作物の利用方法である。一般に、「著作権法 第35条」¹によれば、学校その他の教育機関においては著作物の利用を自由に行うことができる。しかし、ITを利用した授業の場合、必ずしも自由に利用できない。この場合の問題点および対策については、先の論文「ITを利用した教育と著作権」²において述べている。

また、ITを利用することで誰もが自由に多くの著作物を簡単に入手できるようになったので、「YouTube など動画投稿サイトにおける著作権侵害」や「Winny などファイル交換ソフトにおける著作権侵害」などのさまざまな問題³も起きている。これらの問題は、著作権法についての知識を持ち合わせていないか、持ち合わせていても、どこまでが著作権侵害にならず、どこからが著作権侵害になってしまうかを理解していないからであると思われる。そこで、本論文では、

「授業を受ける側の学生を対象」として著作権について、さまざまな分析を行うこととする。

ここでは、本学の学生を対象として著作権についてのアンケートを行い、その結果をもとに大学生の理解度について傾向を統計処理により分析した。これらの分析は、SPSS⁴など統計解析ソフトウェアは一切利用せず、すべてエクセル⁵を利用して行った。これにより、行列計算などの知識があれば誰もがコストをかけずに分析できることを示すこともできる。

2. アンケート

大学生の著作権に対する理解度を分析するために、本学の学生を対象として「著作権の理解に関するアンケート」（表 1 参照）を実施した。このアンケートについては、「著作権 Q&A～著作権なるほど質問箱～」⁶の Q&A より 50 項目を抜粋した。回答方法は、質問に対して「そう思う」「そうである」などの場合は○、「そう思わない」「違う」などの場合は×で答える○×形式で、筆者の授業履修者を対象として 2007 年 7 月 24 日に実施した。なお、有効回答数は 79 名であった。

表 1 「著作権の理解に関するアンケート」

番号	分類	質問	理解度
1	著作権取得	著作権を取得するためには、文化庁への登録が必要ですか。	33%
2	著作権取得	プロの小説家ではないのですが、著作権を得ることはできますか。	86%
3	著作権取得	著作物は公表しないと著作権を取得できないのですか。	61%
4	著作物	アクセサリーのデザインは著作物ですか。	30%
5	著作物	ゲームソフトの映像部分は著作物ですか。	91%
6	著作物	コンピュータプログラムは著作物ですか。	78%
7	著作物	ダンスの振り付けは著作権で保護されるのですか。	23%
8	著作物	人気アニメのキャラクターは著作物ですか。	100%
9	著作物	流行語大賞を獲得した言葉や造語は著作物ですか。	75%
10	保護期間	著作権は永久に保護されるのですか。	67%
11	一般利用	ある人の書いたイラストを、自分のホームページに載せる際、著作権者に電話で確認をとりましたが、これで大丈夫ですか。	71%
12	一般利用	他人の著作物を利用するときは、すべて著作権者の了解を得なければならないのですか。	29%
13	一般利用	アニメ映画の無料上映会の開催チラシにキャラクターを入れることに著作権の問題はありますか。	59%
14	一般利用	あるレコード会社が運営している音楽サイトから、有料で何曲かの音楽をダウンロードしました。何か著作権の問題はありますか。	73%
15	一般利用	ある企業ですが、正規で購入すると非常に高価なコンピュータソフトの海賊版を密かに手に入れました。このソフトを会社のコンピュータで使用しているのですが、何か著作権の問題はありますか。	84%

16	一般利用	ある業者に頼まれて、ある有名なアーティストの演奏をコンサート会場で主催者には内緒でビデオに撮ることになりました。何か著作権の問題はありますか。	91%
17	一般利用	ある人気漫画のキャラクターを参考に作った別のキャラクターをパンフレットに使いたいのですが、少し違っていれば著作権の問題はないのですか。	68%
18	一般利用	非営利、無料かつ無報酬であれば、著作物を自由に演奏や上映などができるという規定が著作権法にありますが、この規定は、著作物をインターネットで送信する場合にも適用されますか。	51%
19	一般利用	他人の論文を自分の論文中に引用する場合に、要約して利用することも許されますか。	53%
20	一般利用	音楽 CD を用いて MD に録音するのは、音楽の複製に該当しますか。	27%
21	個人利用	クラスメイトを集めて、欲しい人に音楽 CD をダビングしてあげることはできますか。	37%
22	個人利用	レンタル店で借りてきた複数の音楽 CD をダビングして編集し、個人で楽しむ場合、著作権の問題はありますか。	73%
23	個人利用	市販の DVD にはコピーガードが施され通常の録画機器では複製ができないので、あるところで売っているコピーガードキャンセラー装置を買って、それを使ってコピーしようと考えています。コピーしたものは私しか使わないのですが、著作権の問題はありますか。	57%
24	個人利用	キャラクターグッズをネットオークションで出品する際に、その写真を載せようと思いますが、許されるのでしょうか。	22%
25	個人利用	ホームページに掲載されている文章やイラストを自分の勉強のため、ダウンロードしたり、プリンターで打ち出したりすることは、権利者に無断でできますか。	75%
26	個人利用	自分で撮影した風景や電車の写真を自己のホームページで公開する場合、著作権の問題はありますか。	81%
27	個人利用	人気漫画を真似て描いた絵を、自分のホームページに載せることは、著作権の問題はありますか。	47%
28	個人利用	家族で音楽 CD や映像ソフトを鑑賞するのは、権利者に無断でできないのですか。	86%
29	図書館	高等学校の図書館ですが、生徒のために図書館の所蔵資料の複写サービスを行いたいと考えているのですが、著作権の問題はありますか。	35%
30	図書館	大学の図書館ですが、生徒のために図書館の所蔵資料の複写サービスを行いたいと考えているのですが、著作権の問題はありますか。	63%
31	図書館	図書館から資料を貸し出された利用者が、その資料をコンビニエンス・ストアでコピーすることは、許されるでしょうか。	63%
32	図書館	図書館サービスの一環で、館内のカウンターで貸し出した映像ソフトを個人ブースで視聴させていますが、著作権の問題はありますか。	77%
33	教育機関	アニメのキャラクターを使った児童の図工作品を展覧会に出品するとき、著作権の問題はありますか。	37%
34	教育機関	市販の様々な問題集から適当に問題を集めて問題集を作り、これを授業中に生徒に配布することは問題ありませんか。	42%
35	教育機関	授業で使用するプリントとして先生が新聞記事、論文、統計資料等を印刷して生徒に配布する場合、著作権の問題はありますか。	77%
36	教育機関	生徒がインターネットから印刷した絵やデザインを使って発表資料や作品を作る場合、著作権の問題はありますか。	63%
37	教育機関	大学の教官ですが、私が担任している講義で使うため、当該講義の受講生 400 人に法学雑誌の記事を複写して配布したいと思うのですが著作権の問題はありますか。	33%
38	教育機関	ある大学の入試委員ですが、入学試験の国語の問題である小説の一節を使いたいと考えていますが、著作権の問題はありますか。	56%
39	教育機関	運動会の入場行進の際、プラスバンド部が行進曲の演奏を行なうことは問題がありますか。	85%
40	教育機関	学校の文化祭で市販の CD によるレコードコンサートを行うことになりましたが、著作権の問題はありますか。	70%

41	教育機関	大学の文化祭で、今売り出し中のアイドル歌手のコンサートを開くことにしました。入場料は無料ですが、歌手が所属するプロダクションには出演料を払っています。このような場合、著作権の問題はありますか。	28%
42	教育機関	中学校の文化祭でブラスバンド部による演奏会をすることになりました。演奏曲目の中には POPS も何曲か入っているのですが、著作権の問題はありますか。	81%
43	教育機関	ある学校の生徒ですが、学校のパソコンを使いインターネットからプリントアウトした資料を複写し、クラスの班の皆に配布するのは、著作権の問題がありますか。	75%
44	教育機関	学校で、授業に関係のある様々なホームページの中からわかりやすいページを教師がプリントして印刷し、授業の中で児童・生徒に配布しようとする場合、著作権の問題はありますか。	75%
45	教育機関	学校のホームページの私たちのクラスの欄で、市販の雑誌から取った記事や人気漫画の主人公などを使いたいのですが、著作権の問題はありますか。	61%
46	教育機関	学校のホームページを作るとき、案内図のために地図サイトの地図画像を使いたいのですが、著作権者の許可は必要ですか。	37%
47	教育機関	児童の作品を学校のホームページに載せる場合、担任の教員の判断でできますか。	57%
48	教育機関	クラスで一番人気のあった曲の CD をダビングして、クラス全員に卒業記念として配る場合、関係権利者の了解は必要ですか。	56%
49	教育機関	学校の運動会の準備をしているのですが、クラスで相談して、連載漫画の主人公を応援看板に描くことになりましたが、何か著作権の問題はありますか。	59%
50	教育機関	学校の授業を一旦録画し、後日そこで使われた資料も含め遠隔地の学校の教室に配信し、生徒に視聴させることについて、著作権の問題はありますか。	30%

実際のアンケートでは、「分類」の記述はなく質問のみである。今回の分析において、この「分類」も考慮すれば、著作権に関する全般的な理解度を知ることができるであろう。また、アンケートの結果として「理解度」⁷も記載した。

3. アンケートの結果と考察

このアンケートの結果を著作権に関する理解度でまとめると、以下の表のとおりとなった。

表 2 学生の理解度

理解度 (以上～未満)	設問数	累積設問数	
20%～30%	5	5	50
30%～40%	8	13	45
40%～50%	2	15	37
50%～60%	8	23	35
60%～70%	8	31	27
70%～80%	10	41	19
80%～90%	6	47	9
90%～100%	3	50	3

この表から、本学の学生の過半数（50%以上）が著作権を正しく理解している項目は、半数以上の 35 項目あることがわかる。しかし、70%以上（大多数）の学生が理解できている項目を考えると、19 項目に減ってしまい、学生の理解度と考えると残念な結果となってしまった。

さらに、大学生全体を母集団、本学の学生を標本と考えて母比率の検定⁸を行えば、95%の確率で誤差は最大でも $e = 11\%$ ($\bar{p} = 50\%$ のとき) となり、これをもとにして母比率の信頼区間を求めることもできる。この結果から、学生の過半数が正しく理解しているとはいえない（信頼区間の上限が 50%を超えない）項目は 13 項目に、70%以上の学生が理解しているとはいえない（信頼区間の上限が 70%を超えない）項目は 21 項目に減らして考えることができる。本論の目的は、大学生の理解度を分析することであるので、70%以上の学生が理解しているとはいえない（別の言い方をすれば、理解度が良いとはいえない）これら 21 項目について分析することにより、著作権に関する理解度を高めるためのポイントがわかるであろう。

まず、過半数が正しく理解しているとはいえない 13 項目と、過半数は理解しているが 70%以上が理解しているとはいえない 8 項目について分類してみると、表 3 のとおりとなる。ここで、今後の分析を理解度のあまり良くない項目の多い「一般利用」および「個人利用」について行うことで、学生の理解度の傾向をより詳しく分析することとする。また、「教育機関における利用」に関しては、「一般利用」および「個人利用」と同様に理解度の悪い結果がでているが、学生側の理解度の問題以外にも教育現場の問題もあると考えられる。そのため、今後、教育現場全体の著作権に対する理解度を深める必要がある。この問題は、本論の主旨である学生の理解度の分析には直接関係しないので、これらの項目に関しては、ここでは分析の対象からはずすことにする。しかしながら、教育の場において著作権に関する理解度を深めることは、将来的に社会全体における理解度を深めることになるので、間接的には関係があるといえる。

表 3 各項目の理解度（カッコ内は各分類における設問数）

理解度		過半数未満	7 割未満
分類	著作権取得について(3)	1	
	著作物とは(6)	4,7	
	一般利用について(10)	12,20	18,19
	個人利用について(8)	21,24	23,27
	図書館での利用について(4)	29	
	教育機関での利用について(18)	33,37,41,46,50	34,38,47,48

「一般利用」および「個人利用」について理解度の低い項目の考察をすると、以下のように分析することができる。

- 私的使用のための複製について

この複製は、一般に著作権者の許可が無くても可能であるが、「私的使用」の範囲がわかりづらく、理解度が悪くなっていると考えられる。

- インターネットを利用した公衆送信について

「私的使用」の例外よりも「公衆送信」の制限が優先されるので、ネットを利用する際の著作物利用は殆どの場合において著作権者の許可が必要となる。インターネットを利用した公衆送信については、比較的新しいものであるため理解度が悪いと考えられる。

- 引用について

著作物の利用に関しては、「引用」することにより自由に利用することができる。「私的使用」については、一般によく知られているが、「引用」についてはあまり知られていない。この点で理解度が悪くなっていると考えられる。

以上の 3 点をキーワードにすることにより、学生の著作権の理解度を知ることができる。そのため、これらのキーワードの理解度を高めれば、全体の理解度も高まるであろう。

4. 項目の類似性と理解度

ここまでで、母比率の検定により信頼区間を求めて学生の苦手になっている著作権に関する事項を分析することができた。次に、アンケートの設問項目間の類似性を知るために、数量化Ⅲ類と数量化Ⅳ類⁹により分析を行う。

分析に利用する設問項目は、「一般利用」と「個人利用」の計 18 個の設問である。これらの項目について学生の理解度の高い項目、低い項目の類似性を分析する。

まず、設問項目を分類し特性を調べるため、設問項目をカテゴリー、回答者をサンプルとして、数量化Ⅲ類により分析¹⁰すると、最初の 2 つの固有値は $\lambda_1^2 = 0.097$, $\lambda_2^2 = 0.083$ となる。さらに、

これら固有値に対するカテゴリースコアは表 4 で示される。また、このカテゴリースコアのグラフ表現は図 1 で示される。

表 4 数量化Ⅲ類カテゴリースコア

設問項目	第 1 軸	第 2 軸
11	0.20	-0.57
12	1.68	3.98
13	0.34	0.37
14	-0.48	0.35
15	-0.78	-0.41
16	-0.50	0.19
17	0.30	0.03
18	-0.67	-0.08
19	-0.75	0.53
20	2.63	-3.10
21	2.23	-0.54
22	-1.20	0.01
23	1.08	0.40
24	3.16	1.93
25	-0.58	0.22
26	-0.55	0.23
27	0.80	-1.88
28	-0.31	-0.48

図 1 数量化Ⅲ類カテゴリースコア

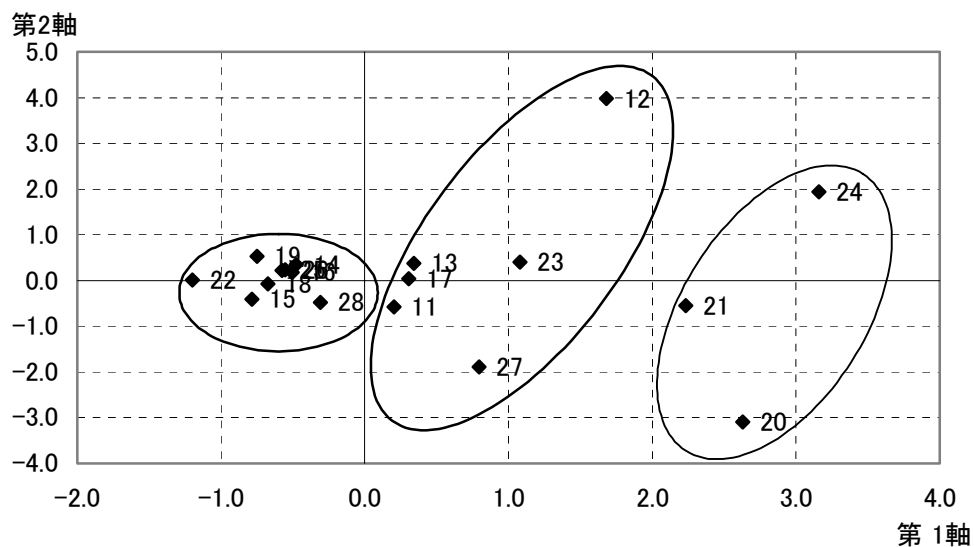


図 1 によれば、類似性を 3 つのグループに分けることができる。これらのグループの意味は、以下のように考えることができる。

- 右のグループ

音楽やネットオークションなど、生活の中でのデジタルに関連するグループ

- 真ん中のグループ

キャラクターやイラストなど、生活の中でのアニメ的なグループ

- 左のグループ

その他のグループ、あえて表現するなら、正規の料金を払って、正規の手続きを踏んでといった常識的な範囲のグループ

これらに関しては、「第 1 軸」に沿って並んでいるので、これらのグループの意味が、そのままこの「第 1 軸」に対する意味と考えられる。考察の結果、「第 1 軸のカテゴリースコアが大きいと、その項目の正答率が低くなる。」ことがわかり、これらに関して相関があることが分った。実際に、カテゴリースコアと正答率の相関係数を求めると、 -0.84 となりかなり強い負の相関があるといえる。この結果から、学生の著作権の理解度をまとめると、「生活の中でデジタル機器に代表される IT 分野の理解度は悪く、アニメなどに代表される趣味の分野での理解度もあまり良いとはいえない。対して、常識的な範囲での理解度はある程度持ち合わせている。」となる。

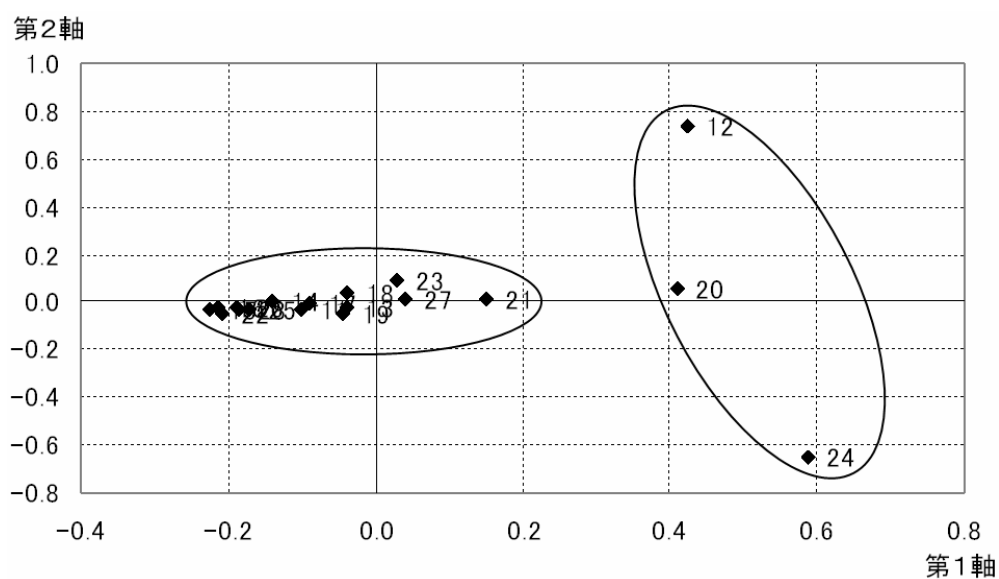
さらに、別の分析方法として数量化Ⅳ類¹¹を用いて項目の類似性を調べてみた。その結果、固有値は $\lambda_1 = -557, \lambda_2 = -633$ となり、これらに対する固有ベクトルは表 5 のとおりとなった。また、これら固有ベクトルのグラフ表現は図 2 のとおりである。項目の分類や特性に関しては、はっきりとした結果は見いだせなかったが、第 1 軸については、数量化Ⅲ類の場合と同様に正答率と相関を見いだせ、相関係数は -0.93 であった。特に、正答率が 20% 台の 3 項目については、グラフ上で他の項目に比べはっきりと右側に離れており、要注意の項目であることがわかる。

表 5 数量化Ⅳ類の類似性

設問項目	第 1 軸	第 2 軸
11	-0.10	-0.03
12	0.42	0.74
13	-0.04	-0.03
14	-0.14	0.00

15	-0.22	-0.03
16	-0.21	-0.02
17	-0.09	-0.01
18	-0.04	0.04
19	-0.04	-0.05
20	0.41	0.06
21	0.15	0.01
22	-0.21	-0.05
23	0.03	0.09
24	0.59	-0.65
25	-0.17	-0.03
26	-0.19	-0.02
27	0.04	0.01
28	-0.19	-0.03

図2 数量化IV類の類似性



5. まとめ

ITが発展した現在、それに伴う著作権問題が数多く発生している。それらの問題を未然に防ぐためにも、著作権に関する教育が必要不可欠である。今回、アンケートを通して大学生の著作権に対する理解度を分析した結果、ITなどの新しい分野での著作権に関する理解度が特に低いことがわかった。この結果は、ITが比較的新しい分野であるということを考えれば当然のことと考え

ることができる。なぜなら、この分野において経験することがすべて初めてのことであり、著作権の知識を何ら持ち合わせていないからである。そして、冒頭で述べたような動画投稿サイトやファイル共有ソフトなどによる多くの問題が発生することになる。しかし、著作権に対して、一般的な理解を持ち合わせていれば、新しい分野においてもある程度の理解を得ることはできると思われる。そのため、これらの問題を防ぐためにも、著作権教育をすべての教育機関において必修扱いにして全般的な理解度をあげることが必要であるといえる。

また、今回の分析では新しい分野での著作権の理解度の低さに加え、自分にとって興味のある趣味の分野での著作権に対する理解度もあまり良くないことがわかった。これに関していえば、問題があるとわかっていても、ついつい自分の興味を優先してしまうからであると思われる。この分野に対しては、我慢する力が必要であろう。その他、全般的に言えば、常識の範囲内で著作権を理解していると考えられることが分かったので、今回の分析の結果として、学生の著作権に対する理解度は満足できる内容であったということが出来る。

注

- 1 著作権法については、「電子政府の総合窓口 (<http://www.e-gov.go.jp/>)」を参照のこと。
- 2 三好善彦『IT を利用した教育と著作権』埼玉女子短期大学研究紀要第 18 号 2007 pp.137-149.
- 3 YouTube など動画投稿サイトでは、私的利用のために複製されたもの（これ自体は著作権侵害とはならない）が、サーバーにアップロードされてから、公衆送信されるため、著作権侵害といえる。また、Winny などファイル交換ソフトでは、同様に私的利用のために複製されたものが、公衆送信可能となってしまうため、著作権侵害といえる。検索サイトで、「著作権侵害 YouTube Winny」をキーワードに検索すると多くのページがヒットする。より詳しくは、それらのページを参照のこと。
- 4 エス・ピー・エス・エス株式会社 (<http://www.spss.co.jp/>) の製品で、統計解析ソフトの代表的な製品である。
- 5 マイクロソフト株式会社 (<http://www.microsoft.com/ja/jp/>) の製品で、表計算ソフトの代表的な製品である。プリインストールのパソコンなどを購入することにより、比較的簡単に入手することができる。
- 6 「著作権なるほど質問箱 (<http://bushclover.nime.ac.jp/c-edu/>)」を参照のこと。
- 7 「理解度＝正しく回答した人数÷全回答者数」とする。

- 8 公式 $e = z\sqrt{\bar{p}(1-\bar{p})/n}$ により誤差を求め、る。公式 $P\{\bar{p} - e < p < \bar{p} + e\} = P_0$ により信頼区間は求める。ここで、 $P_0 = 95\%$ とすると、 $z = 1.96$ であり、 n は回答者数、 \bar{p} は理解度である。詳しくは、P.G.ホーエル『初等統計学』培風館 1981 p.144.
- 9 有馬哲、石村貞夫『多変量解析のはなし』東京図書 1987 pp.243-295.
- 10 エクセルを用いて分析を行った。ここでは、最大 79 行 79 列の行列計算が必要となる。行列の積はエクセルの関数「MMULT」により求めることができるが、サイズが大きいためか、エラーによりすべての行列の積を計算することができなかった。そこで、行列の積の各因子をすべて「MMULT」を使って個別に計算することにより、このエラーを回避できた。また、固有値の計算は、「高橋信『Excel で学ぶコレスポンデンス分析』オーム社 2005.」に付属のエクセルアドインソフトを利用した。
- 11 数量化Ⅲ類のときと同様に、エクセルを用いて分析を行った。行列計算と固有値計算に関しても同じである。